

農業振興の大義を忘れずソーラーシェアリング普及 千葉エコ・エネルギー 馬上丈司代表取締役

——ソーラーシェアリング普及への課題は

一番気になるのは、営農の視点が疎かになっている事例があること。匝瑳での取り組みは遮光率なども考慮し、パネルの下でどんな作物でも育てられることを大前提と考え設備の設計などを行っている。ただ全国では発電事業者側の視点・論理で事業が進んでしまっていることがある。設計にあたり発電事業者にとっての採算やコストの話が先行してしまい、営農者が不在となっているケースが見られる。農業の振興といいながら、「この発電所の設計だとこの作物ができる」という発電事業者ありきの視点に陥ってしまっていることも。

今は固定価格買取制度の価格がある程度高く、発電事業者が農家への報酬を捻出することができるが、現状では農業家が自発的にソーラーシェアリングを行いたいという段階に至るのは難しい。最もベストな姿は農家の方が自ら営農と並行し売電も行うことだが、資金調達の難しさや、農家の方がそもそもソーラーシェアリングについて知らないケースも課題としてある。ソーラーシェアリング用のパネルなど機器を提供する企業もまだまだ少ない。

——なぜソーラーシェアリングを進めるのか

太陽光発電は野立てであればより安価に建設が行えるわけで、それではなぜあえてわざわざソーラーシェアリングを行っているのかを考えることが求められる。そこに

は耕作放棄地の解決であったり、農業の振興を図りたいという大儀や前提があるから。その視点がしっかりと存在していれば、固定価格買取制度が終了しても事業を継続・普及していきたいと考えている。例えばソーラーシェアリング由来の電力を専門に売るPPSなどがあっても良いのではないかと。



——千葉エコ・エネルギーとしての取り組みは

千葉エコ・エネルギーとしてはまず匝瑳市で事業を行っているが、現在秋田でもお声掛けを頂いている。農業の所得向上も考えると、今後は米やハウスでのイチゴ栽培などに挑戦したい。また、我々と共同で事業に取り組む農業法人スリーリトルバーズの方々も、専門家として、さらに有機栽培を前提とするなど、農家としてのプライドを持ち、「この発電の設計では農業が行いにくい」といった意見も頂くなど、様々なやりとりや議論を重ねている。